

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価 (年間評価)		学校関係者評価 (1月13日実施)	総合評価 (3月3日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 自立と社会参加をめざし、一人ひとりに応じた指導の充実と集団の学びの確保を両立した系統性・連続性のある教育課程を編成する。 ICT 機器等の有効活用を推進し、専門性の高い教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習指導要領に基づき、実践をとおして課題を整理し、小規模校の特色をいかした教育課程を編成する。 ②ICT 機器を利活用し、児童・生徒の「やってみたい」を引き出す授業づくりと授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 学習指導要領に基づき、現教育課程の課題を整理する。 ①-2 小規模校の特色を生かした教育課程を編成する。 ②-1 ICT 基本操作チェック表を活用し、児童・生徒の実態の変容を見取る。 ②-2 「地域」をテーマに、協働的な学びに向けた授業づくりと授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 実践をとおして課題を整理し、編成することができたか。 ①-2 小規模校ならではの運営に対応した教育課程を編成できたか。 ②-1 児童・生徒の ICT 活用の技能、情報モラルが向上したか。 ②-2 協働的な学びをすることにより、社会と関わる力が向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①障害種を超えた学びの特色を生かし、教科の位置づけ、わかりやすい授業名となるよう整理した。小規模校ならではの運営に対応するよう、週日課を見直した。 ②-1 児童・生徒の ICT 機器を活用する技能が向上し、選ぶ、操作する、振り返る等の活動に主体的に取り組む姿が見えた。 ②-2 地域の特産品や社会資源を題材に、ICT 機器を活用して調べたこと、話し合ったことを、実際に体験することで、学びを深めた。作品に回答フォームをつけることで、地域とやり取りが生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新しい教育課程の目的や特色を保護者・地域にわかりやすく伝え理解を求める。学習指導要領に基づく、教科のねらいを明確にした授業実践を行う。 ②-1 操作技能の実態把握とともに、情報モラルや安全な利用の学習を計画的に進める。 ②-2 地域を題材とした学習成果を発表することに加え、ICT 機器を活用し、「一人のやってみたい」から「みんなでやってみたい」を引き出す授業づくりをすることが課題である。 	<p>ICT 機器を活用した授業実践が進んでいる。校内外の教育活動や学校の取組が保護者に伝わるよう、発信の仕方を工夫してほしい。</p> <p>●保護者アンケート ICT 機器を活用したわかりやすい授業が行われている。 肯定的な評価 79%</p> <p>●生徒アンケート 約束を守ってICT機器を使っている。 「できた」 90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①障害種や学部を超えた柔軟で効率的な運営が可能な週日課になった。新たな教育課程の目的や特色を周知し、学びの充実を図るよう進める。各教科や教科等を合わせた授業で「何を学ぶのか」を見える化することが課題である。 ②ICT 機器の活用が授業の一部として定着し、主体的な学び・協働的な学び・社会につながる学びが着実に広がった。社会参加ツールとして ICT 機器活用の可能性を広げ、地域や他者とつながりながら深く学ぶ授業づくりと授業改善を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校便りや説明会などとおして、教育課程の特色をわかりやすく発信する。年間指導計画に基づく学びの連続性と、発達や進級に伴う系統性を整理する。週日課や指導方法の運用状況を定期的に見直し、より効果的な教育課程に改善する。 ②発達段階に応じて、情報モラルを含めた ICT 活用の指導を充実させる。地域と協働する学習を年間指導計画に位置づけ、その成果を教科横断的な視点で広げていく。ICT 機器を活用した学びに加え、児童・生徒が役割をもって参画できる場を継続的に設定し、学びが社会とつながる環境づくりを推進する。
2 児童・生徒指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で個別教育計画の作成に関わるしくみを構築する。 組織的な支援体制により、児童・生徒一人ひとりの多様なニーズに応じた児童・生徒指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童・生徒の主体的な学びを支えるツールとなるよう、個別教育計画作成に関わるしくみを構築する。 ②児童・生徒のニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 児童・生徒の思いや願いを反映させること、自身の目標を意識して取り組むことを、しくみに組み込む。 ①-2 校内教職員の専門性を生かし、アセスメントに基づく支援の手立てを共有する。生活年齢を考慮し、特性に応じた指導・支援を行う。 ②校内支援の流れを整理する。支援シート等を活用し、連携に係る支援方針の共有と役割分担を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 児童・生徒の思いや願いを反映した計画となったか。児童・生徒に目標と手立てを説明し、共に取り組むことができたか。 ①-2 アセスメントに基づく支援の手立てが共有できたか。生活年齢を考慮し、特性に応じた指導・支援ができたか。 ②校内支援の流れが整理されたか。支援方針の共有と役割分担に基づき、必要に応じて関係機関と連携した支援ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 個別懇談に生徒が同席し、思いや願いを基に話をすることで生徒の取組への意欲や主体性を引き出すことができた。 ①-2 自立活動教諭を中心とした児童・生徒の行動観察やアセスメントを基に、指導・支援の手立てをチームで検討し指導・支援を行った。 ②ケース会議をとおして、支援方針の検討や共有、役割分担と連携により、組織的指導・支援につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 個別教育計画作成にあたり、一人ひとりに見合った方法で生徒の思いや願いをくみ取り、個別教育計画に反映する。 ①-2 児童・生徒の行動観察やアセスメントの結果を自立活動教諭と担任が共有しながら、より有効な指導・支援につなげた。 ②必要に応じて適時適切なタイミングでケース会議が開催できるよう、開催までの流れも併せて確認する必要がある。 	<p>個別教育計画に児童・生徒の思いや願いを反映させるなど、意思決定に係る支援をていねいに進めるとともに、中学部・小学に取組を広げることが検討してほしい。</p> <p>●保護者アンケート 個別教育計画で立てた目標が、日々の授業に生かされている。 肯定的な評価 96%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①個別教育計画策定のしくみに、生徒参加型の懇談を取り入れた。生徒の思いや願いを計画に反映し、共に振り返ることのできるよう、取組への意欲や主体性を引き出すことができた。支援方法を立案する専門性を向上させたい。 ②児童・生徒のニーズに応じて、チームで支援方針を検討し、組織的に支援を行った。コーディネーターを中心に外部機関と連携し、役割分担をすることで多角的な支援につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①児童・生徒の思いや願いを目標に反映し、共に振り返ることができるよう、個別教育計画の「計画・評価の流れ」を整理し、組織的に運用する。アセスメントに基づく課題設定と支援方法に関する職員研修を実施し、支援の専門性向上を図る。 ②児童・生徒のニーズを組織全体で継続的に共有できるよう、チームでの情報整理・支援方針検討のプロセスを明確化し、会議体や共有方法を整備する。校内研修やケース検討の機会を充実させ、職員のチーム支援力と連携スキルの向上を図る。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(年間評価)		学校関係者評価 (1月13日実施)	総合評価(3月3日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの将来の生活の充実を目指した進路指導・支援を行い、将来の自立と社会参加を実現するために必要な力を育成する。	①選択する力、あきらめずに挑戦する力を育成する。 ②児童・生徒のなりたい自分にむけ、地域資源を活用した進路指導・支援を推進する。	①学習活動全般をとおして、選択することやあきらめずに挑戦する機会を設定し、役割活動等を行うことを支援する。 ②-1 地域の関係機関や事業所等との連携を深め、進路に関する学習等を設定する。 ②-2 進路選択に向け、説明会や見学会をとおした情報発信と、実習等のコーディネートを行う。	①児童・生徒が自分で選択したことに取り組み、達成したり、再度挑戦したりする経験を提供することができたか。 ②-1 地域の関係機関や事業所等と連携し、進路に関する学習が実践できたか。 ②-2 進路選択に係る情報提供と、実習等のコーディネートができたか。	①新しい場面や苦手なことにも挑戦しようとする姿や、最後まで取り組もうとする意欲と態度を育成した。 ②-1 福祉事業所等に来校していただき、実際に事業所で行っている仕事を体験できる機会を作ることができた。 ②-2 企業や福祉事業所等と連携し、事業所見学会や現場実習を実施し、新制度についても対応を進めている。進路説明会 3回 事業所見学 7回	①児童・生徒が選択したことに對し、再挑戦する場面も想定したフォローを準備し、取組を継続する。 ②-1 福祉事業所等の業務内容のバランスを考え、様々な体験ができる機会を継続して作る。 ②-2 企業や福祉事業所等と連携して、新しい福祉制度を児童・生徒、保護者に正しい情報を整理して伝え、見学や実習を円滑に進めていく。	進路指導において、日々の学習に加え、仕事体験や実習など、等幅広い職種に取り組んでいる。業務のマッチングの視点だけでなく、社会性を育むことを大切にしてほしい。 ●保護者アンケート自分で考えたり、意見を周囲に発信したりする機会が増えている。 肯定的な評価 76% 進路選択に向けた情報発信を積極的にを行っている。 肯定的な評価 96%	①ICT 機器を活用し、調べることや、取組過程を可視化するステップを経て、挑戦しようとする意欲や、最後まで取り組もうとする意欲と態度が向上した。 ②生活年齢に応じた仕事体験により、働くことに対する意欲や関心を高めた。保護者説明会や事業所見学会における情報提供や、実習のコーディネートをとおして、進路選択の支援を行った。	①児童・生徒が自ら選択し行動につなげられるよう、基礎的なスキルを段階的に積み重ねられる指導の流れを整備する。安心して挑戦できる学習環境を整え、特性に応じた支援方策を充実させる。 ②生活年齢に応じた仕事体験等、事業所の協力を得ながら体験的に学ぶ機会を充実させる。児童・生徒のなりたい自分に向けていていねいに対話を重ね、新たな福祉制度を含め、進路指導に関する情報提供と進路選択の支援を継続する。
4	地域等との協働	・共生社会の実現に向け地域の学校等や地域住民との協働による教育活動を展開し、地域貢献を推進する。 ・センター的機能を発揮し、小中学校及び高等学校への組織的なコンサルテーションを充実させる。	①地域に根ざした教育活動や学校防災をとおして、地域との協働を推進する。 ②センター的機能をとおして、地域の学校の支援力向上を図る。	①-1 居住地交流や、学校間交流をとおして、地域の小中学校と共同学習を行う。 ①-2 地域資源の活用や地域との話し合い等によるアイデアを生かし、教育活動や学校防災を充実する。 ②-1 職員一人ひとりが、巡回相談、居住地交流等の機会をとらえて役割を果たし、学校全体でセンター的機能に取り組む。	①-1 交流および共同学習をとおして、学校間の連携を深め、互いに意義を見出すことができたか。 ①-2 教育活動や学校防災をとおして、地域との協働を推進できたか。 ②-1 センター的機能をとおして、地域の学校の支援力向上に寄与できたか。	①-1 交流校等への出前授業をとおして児童・生徒と交流のねらいを共有し、交流および共同学習をすすめた。 ①-2 学校運営協議会や部会をとおして、情報共有やつながりをつくり、学習活動の充実を図った。 ②-1 専門的な支援や情報提供を行い、一緒に考えていくことで教員の指導力向上に役立った。巡回相談 20件 研修会講師 4件	①-1 互いに理解を深めることで、交流から共同学習に発展させることが課題である。 ①-2 部会で出た意見やアイデア等を元に地域とつながり、協働したり取組を推進していく。 ②-1 専門的な支援や情報提供を、継続的・計画的に行い、地域の学校の支援力向上につなげる。地域に対しての情報発信のあり方を検討する。	学校の取組を地域に発信する取組の強化が望まれる。地域の伝統、特産物、産業に対し、教育活動をとおして貢献できるとよい。 ●保護者アンケート地域での協働的な学習に積極的に取り組み、地域に貢献できている。 肯定的な評価 82% 職員一人ひとりが、あらゆる機会に障害理解の促進に努めている。 肯定的な評価 89%	①地域とつながり、地域の産業や資源を活用した教育活動を展開し、取組を発信した。居住地交流や学校間交流の内容を、交流から共同学習に進めて行きたい。 ②特別支援教育に関する研修や巡回相談をとおして、地域の特別支援教育の専門性を高める取組を進めた。センター的機能を担う人材の育成が課題である。	①学校間交流および居住地交流のねらいを再確認し、互いに学び合う共同学習へと発展させていく。地域の産業や資源を活用した取組を教育課程に位置づけ、継続的に実施できるようにする。 ②特別支援教育に関する基礎的な内容やニーズに応じた研修の機会を提供する。教育相談コーディネーターを計画的に育成するとともに、職員一人ひとりがセンター的機能を担う一員となるよう、専門性を高める。
5	学校管理 学校運営	・安心安全な教育環境づくりに取り組む。 ・開かれた学校として、本校の教育活動等を外部に情報発信する。	①-1 組織的な学校運営とチームによる業務遂行により、校務の効率化を図る。 ①-2 全職員が課題意識を持ち、安全な学校づくりに主体的に取り組む。 ②地域の一員として、児童・生徒の学習活動や学校の取組をわかりやすく発信する。	①-1 業務遂行の流れの明確化と進行管理に基づき、チームで業務を遂行することにより、校務の効率化を図る。 ①-2 対応マニュアルに基づく、実践的な訓練、研修をとおして、一人ひとりの課題意識と対応力の向上を図る。 ②ホームページ、学校だより、行事等の案内をとおして、わかりやすい情報発信に努める。	①-1 業務の流れの明確化と進行管理のもと、組織的な業務遂行と、効率化が図られたか。 ①-2 研修をとおして、事故・不祥事ゼロの取組が達成できたか。対応マニュアルに基づき、実践的な訓練が実施できたか。 ②見る人の立場に立った情報発信ができたか。	①-1 職員研修をとおして、校務の効率化、業務遂行の現状と課題を整理し、職務環境の改善につなげた。 ①-2 災害発生時に組織的に対応できるよう、対応マニュアルを改定し、実践的な訓練を重ねることで、職員の課題意識と対応力が向上した。 ②見る人の立場に立ち、学校の取組をわかりやすく発信するよう努めた。	①-1 職員の実感に至らなかったことが課題である。目的、効果を共有し、成果の見える化、成功事例の共有を行う。 ①-2 実践的な訓練や研修を、一人ひとりが自分ごととして考え、組織的に行動する機会とすることで、安全な学校づくりにつなげる。 ②学校の取組に興味を持っていただくよう、必要な情報をわかりやすく発信する。	業務改善に伴う一時的な負担の増加、取組経過等の周知不足の課題はあるが、長期的な視点で評価しながら、進めることが重要である。 ●職員アンケート業務の効率化が進んでいる。 改善を要する 69% ●保護者アンケート事故・不祥事を防止や、児童・生徒の人権意識を高める研修を行い、考え方や接し方の改善を図ろうとしている。 肯定的な評価 79%	①事故・不祥事の防止、危機管理に対する訓練に、全職員が課題意識を持って取り組み、対応力が向上した。業務の効率化に向け、情報の整理や職務環境の改善を行った。チームによる組織的な人材育成と業務遂行の推進が課題である。 ②ホームページ、学校だより等を介して、学校の取組を発信した。直接的、間接的な発信の仕方を工夫し、学校の取組に興味を持っていただくことが課題である。	①全職員が共通理解のもとで業務を遂行できるよう、引継ぎシートを改善する。チームによる人材育成と業務遂行に向け、職員間の支援体制づくりを進める。実践を定期的に振り返り、事故・不祥事の防止、デジタル・アナログ双方の特長を生かした業務改善を行う。 ②学習結果の発信に加え、活動場面を見ることがつながるよう、発信の時期や方法を工夫する。地域の方に実際に見ていただく機会設定を検討する。